

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400914		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ラ・アケソニア		
所在地	箕面市白島1丁目19-3		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成26年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症を遅らせる為に月2回音楽療法を行っている。 庭に畑を作り野菜を作っている。保育園の園児たちが毎日庭に遊びに来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな自然環境に恵まれた箕面の山の手に場所に介護老人保健施設と併設された建物に事業所はある。母体が地域医療に携わるクリニックであり医療面の充実に安心感がある事業所である。個々の利用者の日々の変化に、きめ細かく対応する職員への家族の信頼感も高い。棒体操、生け花、読み聞かせ、ゲーム、双六歌、ウクレレ鑑賞、音楽療法、著名な芸能人が来る文化祭開催等々盛りだくさんの行事やレクリエーションも特徴のひとつであり、利用者は明るく楽しい雰囲気の中で穏やかに日々の暮らしを過ごしているアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については理解している。法人内での自己評価において共有し実践につなげる様に心掛けている。	理念のキーワードに「愛」、「共感」、「奉仕」を掲げ、笑顔の絶えない支援を介護の心として、職員間での共有化して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板から情報を得、地域の老人会に参加するようにしようとしている。	自治会へ加入し、老人会の行事に参加する等、地域交流への積極的な取り組みが感じられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	去年バザーを行い、居室等を見学して貰ったり認知症の方と接して貰う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し報告したり意見を聞いたりしている。	箕面市職員、地域包括支援センター担当者、自治会の代表、民生委員、家族等の参加メンバーも充実し、地域との交流、事業所の運営状況の報告など運営推進会議の狙いに沿った会議内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールアドレスを交換したり運営推進会議には出席して貰ってる。三ヶ月に一度箕面のグループホーム連絡会に出席して貰って意見などを聞いて貰っている。	行政の担当窓口とは積極的に情報交換を持つように努めている。市主催の行事や連絡会に事業所から職員が参加するなど、行政との良好な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない	身体拘束をしない介護の徹底を図るために法人全体で研修を行うなど、組織に身体拘束防止に取り組んでいる。職員による自主的な取り組みや問題意識の徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	聞いた事はあるが活用できるように支援はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時では充分の説明を行い、理解して貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の意見を来所された時や運営推進会議時に聞いたりし期待に沿えるようにこころがけている	運営推進会議に家族の参加を呼びかけたり、家族との関係作りに努めている。家族の来訪時における健康面や日常生活の報告や、職員が「なごやか たより」を作り、家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度定例会を開き職員の意見や提案を聞いている。	管理者と職員間の意思疎通、自由な意見交換、議論はスタッフ会議や日常のシフト間の業務引継ぎで行われ、職員間での情報共有を徹底させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回自己評価を職員にして貰い、面談などで一人ひとりの職場状況の把握をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設されている老健と共同で勉強会を開き職員の介護技術をはかっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三ヶ月に一度市役所でグループホーム連絡会があり意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見守りを行い行動や意見などを傾聴し信頼関係を築くように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の思いを傾聴し、ケアプランに反映しよりよいサービスを提供するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の意見を傾聴しケアプランに織り込みサービスを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを傾聴しできるだけそうように個人企画を立て実行に移している。家に帰りたい思いなど。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力を得、家に帰りたい思いを叶え、本人の満足感を得ることができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のお友達にお茶会を開催してくださるようお願いし本人との繋がりを大切にして貰う。	入居以前の本人の親戚知人、交友関係、社会との関わり、人や場所との繋がりが事業所における生活でも引続き継続できるように、家族の協力を得ながら支援に努めている。	利用者本人の過去の生活暦や思い出、生き甲斐に個別の人生にスポットライトをあて、支援する取り組みは如何。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルでいっしょであったりレクリエーションを行いながら関わり合えるように環境づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ移られた方などお見舞いに行ったり他の施設へ移られた方へは、訪談したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別企画として利用者様の思いを叶えるために家族様と外出して貰っている。	出来るだけ今までと同じ暮らしが継続出来るように本人及び家族から暮らし方の希望を聞き、職員も入居者から学びながら共に暮らす関係づくりを大切に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様からのお話を聴いたり本人からの情報を得て、理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人とのコミュニケーションの中から傾聴し、今の暮らしをどのように思うか把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりに担当者を決めよりよく細やかなケアができるようにしている。	スタッフ会議時のアセスメントが細かく行われ、本人本位の介護支援計画書に反映されている。情報が良く整理され職員間で共有できるような仕組みが作られている。シフト引継ぎ時には利用者状況の情報交換がしっかりと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人個人の状態をカルテに書き込み情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに答えられるように耳を傾け柔軟な心で対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人会に参加できるように支援し地域の中に溶け込むようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回事業所と提携している診療所から往診に来て貰っている。	母体のクリニックによる月2回の定期往診やかかりつけ医への受診など家族・入居者と相談して支援している。外部受診へも家族の希望に柔軟に対応している	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に16時間勤務している看護師と状態を相談しよりよい健康づくりをおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師による病院受診時や入院時において看護サマリー等をつくり渡している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期において家族様の意向などを聞いたりこ細かに説明を行っている。	入所時に事業所の対応方針を説明し、家族の意向を確認すると共に、家族とかかりつけ医と職員がその必要都度相談する体制が出来ている。「重度化時の対応に関する同意書」にて家族との情報共有が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	契約時に緊急時におけるアンケートを提示し答えてもらっている 職員には年に数回勉強会において実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設されている老健と共同で勉強会を開き職員の介護技術をはかっている。共同で消防署の方を交えて消防訓練を行う。	建物全体として防火管理者を置き、防災組織体制が構築されを運用している。消防署と連携した非難・消火訓練が行われている。夜間でも訓練通りに動けるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの情報を得、プライドを傷つせずに思いやりのある言葉掛けを行っている。	法人の職員研修のカリキュラムでプライバシーや個人情報の扱いについて徹底している。職員は利用者の尊厳に配慮にした言葉掛けをし、介護記録等の報告書への記入時にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が進んで会話ができるように優しく話しかけ傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訴えがあればそれに沿うように対応しその人らしい生き方を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が入浴時いしょにに着替えを選んだりよごりていたりした時は着替えて貰っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	老健と併設しているので朝食と昼食作りを行っている。昼食作りにおいては、お手伝いをしてもらい、皆で食事をしている。	利用者のADL状態が進行してきているが、食事に関する一連の作業を残存能力を活かす生活リハビリの場と位置づけている。盛り付け、配膳、後片付け、テーブル拭きに参加してもらうように促している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表を作り食事量や水分量を書き留め一日の摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後かくへやの洗面台において口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	はいせつの訴えがあれば各部屋にトイレがあり自分で行けない人には連れて行き回数を把握する為一人で行かれる人にも付き添う。	各個室にトイレが設置されている。個人個人の排泄リズムや特長を記録して、タイミングの良いトイレ誘導を心がけて、自立したトイレでの排泄習慣の継続に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトや冷たいミルクを飲んでもらったりそれでも出ない場合は、主治医と相談の上くすりのコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日三名と決め時間をゆったり取りすぎないだけ入って貰ったり気乗りのしないときは、別の日に入って貰っている。	本人の希望に沿った入浴支援を行っている。楽しんで入浴できるように職員が個々に工夫しながら支援している。気分や体調不良の時は臨機応変に清拭等に切り替えて清潔保持に努めている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や体調に合わせて昼寝をしてもらったりして昼夜逆転にならないように睡眠時間をきめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが管理し、食事の後名前と日付けを読み上げ名前を確認し飲んでもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活でのお手伝いをしてもらい、役割分担を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日違ったレクリエーションを行い、毎月一度は外出行事を行い、気分転換を行っている。	利用者のADL状態に応じて出来るだけ外気に触れる工夫をしている。散歩やベランダへ出での植物への水遣り、玉ねぎ植えなど畑作業で体を動かすように心がけている。買物や外食時のお出かけも利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族様から預かり管理している。必要に応じてそこからだしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話の希望がある時は掛けて貰っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計を三箇所に置き、どこからでも見れるようにしている。季節感を出す為にカレンダーの壁画を毎月作っている。大きな庭がありそこに季節ごとに野菜をうえ楽しんで食している。	廊下、食堂、居間は広く設計されゆったり感がある。食堂に面した外の景色は四季折々の様子が見えて利用者の楽しみである。季節の花や植物を欠かさないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室となっており独りで過したいときにはへやで過され庭に出て日向ぼっこをされることもある。リビングで他の利用者様とお話をされることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全にすごされるような配置等を考え、あまり使われないものを取り除き家族様に持って返って貰ったりしている。暮らしやすい空間づくりを行っている。	家族にお願いして、本人が落ち着いて過ごせるように馴染みの家具や飾り物、写真等を持ち込んで貰っている。家庭的な雰囲気のある居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方には自走して貰い自分の部屋の前まで行って貰い自分の部屋を覚えて貰い、自走して力を付けて貰っている。		